

# 中小医療機関における集中化戦略の有効性に関する研究

■ 社会環境学部 社会環境学科 教授 松藤 賢二郎

○ 研究分野：医療経営学、医療マーケティング

○ キーワード：医療機関、経営戦略、マーケティング戦略、NDB、DPC

## I 研究概要

近年の医療制度改革により、医療機関には医療の質を維持した上での経営の効率性が要請されており、特に急性期病床を有する中小医療機関(300床未満)には、生き残りをかけて高度な経営的意思決定が不可欠となっている。

本研究では、中小医療機関の経営戦略・マーケティングの観点から、定量的分析に基づく環境分析を行い、第2次医療圏\*内における各種競合状況を把握する(図1)。その上で、中小医療機関にとって、特定の主要診断群ないし疾患に専門特化する、いわゆる“集中化戦略”(図2)が医療機関の経営効率性の追求だけでなく、医療の質を維持した上での医療の効率性(医療資源の効率的配分)をも追求しうる、医療と経営の二側面での効率性についての有効性を検証する。

なお、各種定量的分析には、厚生労働省公開の診療実績データや各医療機関が公表している財務諸表データを活用している。

### ※2次医療圏

都道府県が医療政策を立案するために、1~3次の医療圏を設定している。1次医療圏は診療所などの外来を中心とした日常的な医療を提供する地域区分で、原則は市区町村が中心。3次医療圏は、重度のやけどの治療や臓器移植など特殊な医療や先進医療を提供する単位で、北海道を除いて各都府県がひとつの区域となる。

2次医療圏は、救急医療を含む一般的な入院治療が完結するように設定した区域。2020年9月時点で335区域ある(日本経済新聞の分析は16年時点の344区域と比較)。人口や入院患者の流出入の状況に基づき、通常は複数の市区町村で構成する。医師数や病床数などの計画は2次医療圏をベースにしており、地域医療の基本的な単位といえる。

(nikkei4946.com 2020.10.1版より)

## I 利点特徴

- ・エビデンスに基づく病院経営の戦略形成を示すことができる。
- ・医療機関が地域医療における機能選択と他医療機関との連携について、より有効な意思決定ができるようになる。
- ・医療と経営の効率性追求が可能となる。

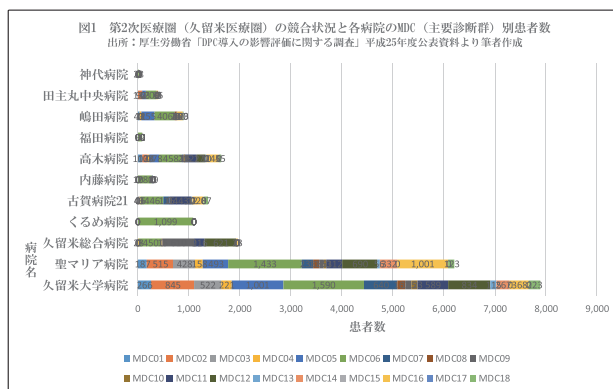


図1: 第2次医療圏(久留米医療圏)の競合状況と各病院のMDC(主要診断群)別患者数  
出所: 厚生労働省「DPC導入の影響評価に関する調査」平成25年度公表資料より筆者作成

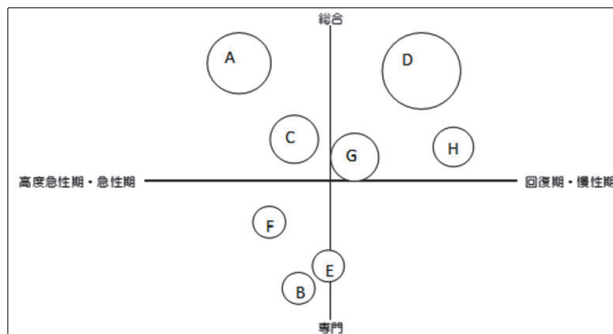


図2: 中小医療機関の定量的分析に基づく環境分析

### 医療圏の種類

1次医療圏	原則市区町村単位。診療所の外来診療など日常的な医療を提供
2次医療圏	複数の市区町村で構成。救急医療を含む一般的な入院治療が完結するよう設定
3次医療圏	原則都道府県単位。重度のやけどの治療や臓器移植など特殊医療や先進医療を提供

